



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究各論 第一章 通巻第十六巻 : 生活構造28
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第6章 : 日本国民の社会意識 『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1963-08-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77520
Type	manuscript
File Information	I033_013751028.pdf



各論21.1(2)
15-2

(2)

28

第一章

NOTE BOOK

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

生活構造

國民社會の研究

各論

第一章

通卷才十六卷

昭和二十七年五月十日

F
A
4

28

第一章 口説きおたにあげ。生活構造

序説

同居関係

第二章 集落の発展

第三章 交流

文化生活

合併の
合併の
合併の

第一章 口説きおたにあげ。生活構造の早期

序説

過去より発展の事情を明かす。

事は望ましいものであるか。今第一章に回りに

しよるとする。同居関係についてそれを

過去に興味をたどつて行けば限られた

さういつ代に及ぶか、それは明瞭不明の

沼澤に達するがオキである。故に私は

明治六十年からでもなく、近世の初めか

うで、有史時代の初めからでもなく、

過去の経過はすつと一度社会の外に

あり、現在に就点を置く。す。

現在では私の研究能力の度で

と、二章でもたしかめよう。又おもしろい

である。

私は本意をいへば同居関係と集落
関係とは同じとし同居関係を第一に
して集落^落関係をその次に考える。
是れから、一般的研究の事情によつて
は集落^落関係が先づ第一に発生し
同居関係がその中に包含したものと
思はれるから集落^落関係を第一に次に
同居関係を同じにするべきであらうと
考へてゐるわけである。現存の資料^{資料}によ
つて集落^落に起るたをかく私の理解
では同居関係の何れかの統合の上

に集団性社会は成立しているといふと云ふ
方が実存しているからである。

第一 同居関係

今日の民法は皆何某かの形に於ける同居関係の中に生活の本據を以てする。生活の本據とは睡眠して居る力になつて場所、自分の生命を安んずる所といふところ、つまり睡眠の場所、⁽²⁾自分が最も大切に思つてゐる人々の生命を安んずる所、⁽¹⁾船に家族の位居る所といふところ、⁽³⁾自分か一番大切に思つてゐる物品を保管してゐる所、それが生活の本據である。自分の住居が生活の本據で、一般に家族はそんな住居を以てして居るを共有してゐるところに、一に同居になつてゐるを好む性質がある。

もつ。此等の保全を共にし、財産を
共にし、名譽を共にし、運命を共に
して、いふところに家族は新家庭を
以上になさるゝをねむ。

家族は血族であつたところに親戚
を理由かあるとはなく、むしろ同
居関係をなしてゐるところに親戚か
うてゐるをねむの根據がある。
家族は兩戸一校の中に運命を
共同守衛するといふ國である。家
族は相互の利益がなけりば夜も
おちく眠。こゝも必要なり。

家族は血縁者の中から今迄も様々
一團丈けが共同片位して特別の一團
になつたのは甚だ意味多い史學上
の同位である。（此處を理由からいふか否かは
家族同居関係の
私は今右の如き類型に属する同
題は全然ふれなかつたところか。（家族
現在一般の足るも同居関係の精
成は月毎に年毎に強しく変化して
いふ事は足る得るはゆかぬ。
私はこの変化を厚みのある花の
中に観察してゐる。直系家族より
夫婦家族への移行として取扱

(一) 生活の職分支配の傾向
(二) 生活の消費・組合支配の傾向
(三) 生活の本来的保存的自由傾向
その傾向には労働組合の革新的
的社會主義的陣営からの指導傾向
である。右の三の傾向も家族
の経済的機能は弱まりつつある。

はれし、家族より世帯への空間
として分離される。世帯増加
の傾向、集合住宅、アパート、独
身寮、集居園、寮、同僚寮の
増加は何れも同居団体化傾向に
おける異変であつて、それと共に
の職場中心の社會の成立に伴つて
のものであることはたしかである。
第二次大戦の後では家族は皆
同居団体化をせし、同居団体化は強
く家族より成立してゐる。あつた
が、これらも都市家族の中には

地

その一部分が他^地に居住したり、その
家族の同居関係の中に家族外の
者が加はつていた場合、^{家族}くうかは
あつたのであるが、^{他人}その他の親戚も
同居の親戚もや、明白であつた。
勤務通算、旅行のために他^地に居る場
合があつたと告げ、^{他人}使用人、同居
人（親戚、他人）も家族と告げる同居
例^{この}（場合）も多かつた。
法律上の権利義務の主体の不確
の本拠を決定^{してよく}するは、^{他人}社厚生
法の円滑を期する上に必要

である。

生活の不節の本據は土地に固定
着した労働物以外には考へられ
ぬ。一面の財子に金民に同時に適
す。必要ある場合には皆その本據に
あうしむるべき型をいし、~~特定の財~~
何れの時においてもその者に連絡の
必要ある場合の爲に本據は必要な
法に必要である。これなくしては責任
ある生活は不可能である。
本来戸籍上の本籍はかくの如く物
質的ものとして生れたのであろうか。

完全に形式化し、書地あつて家屋も
存在せぬところを本籍といふ場合
もある。を实例によつて私は知つてゐる。
然し今日では本籍は口民が口家
に通ずる處にである。

生活の本據は口民が社会に通
ずる處にたとへる。生活の本據
は住居であるが、それは家族共同
の住居であつてはかぎらない。か
ぎつた。

今日日本の都市にありは同居同
族は家族より大々かつたり、又

家族よりわさかつたりする場合が多いが、
然しこれは同居者達の生活の本據
を失つてゐるには變りかつたので、先
等調査の果位にこの同居関係を
用ゐるゝあつた。そしてその場合
この同居関係を世帯と呼ぶ。
家族と大體同一の性格の同居係
であるが、家族より大である場合、おで
ある場合も多いのである。
~~世帯~~世帯と云ふのは独身寮と
大家家、金下家、アハート、船舶
おそれ等の如く家族同居関係より

母妻の元、甚ち多く、家に住ま
を共同にしてつとる、丈夫のものであ
る。此一社の家の縁丈のおそれ同
家おと同一様国の、女身家として
は、経済的に富は甚だ豊かである、
「同家者達の同の

とに、同同居団体は、その時々の
各々の生活あり、皆生活の本
據を有してつとるものである。ホテルの
宿泊を、^其一夜の生活の本據は、
これにあるのである。

どんな大都市でも深夜の街
は静まり返って人は皆互れく

どんな形で定めたかそれく的生活
の本據に^物ついていふ。この本據から出
て次の日の活動はどこかで定まる。
一毎の本據もあるが、多くは何年
何十年経てゐる生活の本據をそこ
に定め、夜毎にそこで過すのが
一般である。

日本では直子宗族より夫婦宗族
への移行は同連した同族同僚の
内房の定質もあるが、職場中へ
移行したともなうて色々の
変容が見られる。

第二章 集落研究

同居団体の地域的集合体と
集落研究とをいふ。同居
団体が外観においてその共同居住に
よって即ち家屋によつて察知され
る様に集落研究は、かくの如き家
屋の集合の外観によつてその地
域的統一を察知する。又ある。
住宅地と集落研究とは一致しない
外延をもつてゐる場合もあるが、それ
はよくの例外であつて、集落研
究は集落の上はそれのみに西
かおつてゐるが常である。

日本における集落は河系に沿って
おろかり沿海平原には多数の集
落がみられる。河川の分岐点及び
大きな交通路と河川との接合
点の近くには大きな集落が見
られるが容易に推察される。
その外形において大きな集落にはこ
に多くの交通路が集まっていると、
明白な痕跡ではなへる。遺跡が密
集しているものもある。大きな集落に
なるはなるが、これらの傾向は甚し
いものもある。交通路の集まっている

ないわさる集落には住居以外の
建物も有してゐるから。

わさる集落は曲がり角であつて大き
な集落は都市であつて、市は少し
立ち上つて整齊すれば直ちにうなづけ
る。

集落は都市と村落か、その例に
かゝる。都市には交通路が集まり
人の往來がはげしく、村落には交通
路も並みの村人との通行のため細い
道路である。また、市位は生活
の居を同じたゞさなくとも容易に

よサとれる事である。然し都市に集
つては多くの女性片々何を怠惰する
かは立ち上つて調布に必要である。
都市社会の教養としてこれに
は、都市には多くの人々に関係する
るを要する。又関係する人
々が多ければ多うたむそれが必要とい
ふに思はれる。存を生活のか集
つてゐる。つまり（民文化）交流
して第一代す。要過親に結集
の役になつてゐる。存を生活のか集
まつてゐる。それ等の生活に必要

都市には

左活動の本拠 即ち機關が集
まり、それらの活動の
に必要なる交流の用と果してこの
様々の交流路線が都市に集
まると云ふは、人や物やにか
り、都市に引いて来るものはその
みである。

村落にすむ人々が、政治の爲め、
経済の爲め、その他様々の交流の爲
にもつと広い世界に、然るにその中
に、もつと狭い世界、~~又~~は世界、
どこかに、つなかる、つなかつ

口良生活の稼りの方面の中心活動
にうつち、窓口の一端は田舎町に
もあふ。

かくの如き窓口は、新市に集まっ
て、構図である。